

## レーザー治療

### 網膜裂孔

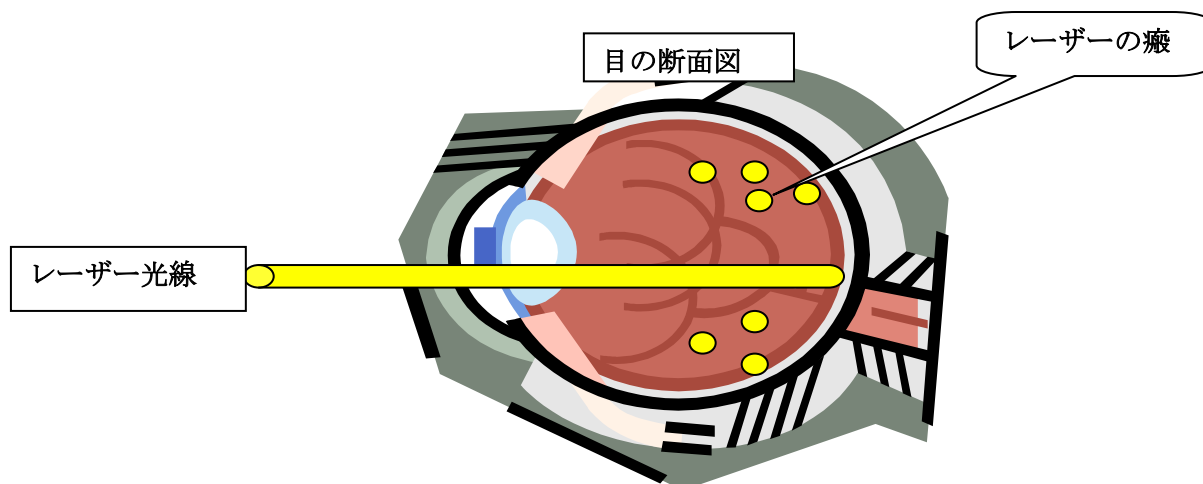
網膜とは、目の奥にある光を感じる膜です。（カメラのフィルムのようなものです）この網膜に孔があいてしまった状態を網膜裂孔といいます。

放置すると網膜剥離に進展する事があります。網膜剥離は視力障害、失明につながる場合もあります。

網膜剥離の発生を予防のため、孔の周りにレーザーを当てる処置をします。

**レーザー治療**は痛みもなく10分ほどで終わります。入院の必要もありません。

飛蚊症の中には網膜裂孔が隠れていることもありますので、飛蚊症を感じる方は一度目の奥の検査をお勧めします。



レーザーを撃つ装置

## 糖尿病網膜症、網膜静脈閉塞症

重症の糖尿病性網膜症、網膜静脈閉塞症などで網膜の血管が詰まり、網膜の血流が足りなくなった場合、網膜に「出血」や「白斑」、「未熟な血管が生える」（新生血管）などが生じます。

その結果、目の奥で大出血や網膜剥離が生じたり難治性の緑内障が起こることもあります。

これらの状態は失明につながります。

これを防ぐ為、現在第一に考えられている治療法が**網膜光凝固術**です。

これはレーザー光線で網膜を間引きし、新生血管の発生を抑えたり、出血の吸収を促進したりする目的で行うものです。

基本的に病気そのものの治療ではなく、病気に伴って起こる合併症を予防するのが目的です。視力が改善するものではありませんが、これにより失明を防ぐ効果が期待できます。

糖尿病の網膜症の中でも、重症で放置すると失明しそうな方への治療です。

糖尿病の方のみなさんにする治療ではありません。レーザー治療は痛みもなく10分ほどで終わります。入院の必要もありません。